

拝啓 今年も早や2月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、今は冬枯れの時期ですが、露が朝日に映えてキラキラと輝いて見える日があります。

今回は、小西芳之助先生の『ガラテヤ人への手紙講解説教』からの引用の第8回目で、今回のエンカウンターの13頁「力はどこから来るか」には、次のように書かれています。

「力はどこから来るか

パウロはこの「信・望・愛」に尽きています。ロマ書及びガラテヤ書は、この「信・望・愛」を述べています。このことだけについて述べています。他のことは書いていないので、いよいよキリスト教の勉強になってきたら、ロマ書、ガラテヤ書になります。キリスト教で救いとはどういうことをいうのか、どうしたら救われるのか、救われた者はどう生活すればよいのか、この三つが根本問題です。これが分からなくて、教会に何十年来ていてもあまり意味がないと、私は思います。この三つがはっきりしていないから力がない。力ははっきりしたものから出て来ます。」

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』2月13日

「他力か自力か

イエスいわく「汝の信仰汝を救う」（マタイ伝9章22節）それでは、私の救われるのは神の力ではなく、私の力であろうか。

我々は、この「汝の信仰」の意味を知らねばならない。これは、我々が我々の信仰によって救われるということの意味せず、ただ、我々がイエスの十字架の贖いの力を受け入れることを意味する。

我々の側では、十字架の贖いの力をただ受け入れるだけであり、神の側では、「汝の信仰汝を救う」と言って下さる。

何と妙なる神の愛よ。」

新渡戸稲造先生『一日一言』1月15日

「世に生まれ出でたる大々の目的は、人のために尽くすにある。自己の名利のためではない。我が生まれ来た時より死に去るまで、我が周囲の人が少しなりともよくなれば、それで生まれた甲斐ありというもの。」

松下幸之助先生『続・道をひらく』「激動」

「世界は激変そして激動。だからお互いの周辺も何となくあわただしく移りゆく。ゆれ動くものはゆれ動くし、移りゆくものは移りゆく。その姿をまず素直に観じることである。そして素直にその適応の道を考えることである。

そのなかから、変わって変わらぬものを見つめたい。動いて動かぬものを見つめたい。

いかにゆれ動いても、天地が逆転しているのではないし、いかに変わっても、人間はやはり人間なのである。激動への対処の道も、基本はやはりここにおいてみたい。むつかしいことかも知れないが、今ほどこれが大事なときはないようにも思えるのである。」

内村鑑三先生『統一日一生』2月23日

「偉人とは大事をなす人であると思うは大なる間違いである。偉人とは小事に忠実なる人である。小事に忠実なるがゆえに、その小事が積もりて彼をして大ならしむるのである。小人他なし、虚偽（いつわり）の人である。万事をごまかす人である。何事をも完全になさんと欲してその事を務めざる人である。ゆえに彼は生涯を費やして一事をも成就し得ないのである。

偉人たらんと欲するか？ はなはだ容易である。すべて汝の手に来る事は、力を尽くしてこれをなすべしである。誠実その事が偉大である。誠実をもって万事に当たりて、何びとも偉大たらざらんと欲するも得ない。世にいまだかつて誠実ならずして偉大なりし人のあったことはない。」

バークレー先生「ウイリアム・バークレイの一日一章」（1月23日）

「もう一度手紙のこと

わたしはいまアメリカから1通の手紙を受け取ったところである。わたしの知らない婦人からのものだが、封筒の裏にこう書いてある。

手紙よ、野越え山越え海越えて行け、
おまえを運ぶすべての人を、神よ、祝し給え、
目的地なる家の人々、
とりわけ宛名の人を祝し給え。

これは詩ではないし、韻文としてもあまりうまくない。しかし、このような手紙を受け取るのは心温まることである。

また、この手紙をきっかけに、私は手紙を書く場合の規則のようなものを記してみたくなった。

すぐに書きなさい。返事はすぐに出しなさい。…すぐに書かなければ永久に書かないことになるだろう。

読めるように——特に自分の氏名と住所は分かりやすく——書きなさい。

新約聖書のなかに手紙について書かれた箇所がある。クリスチャンはそれを決して忘れてはならない。すなわち、パウロはコリントの友人たちにこう書いているのである。「きみたちはキリストの手紙なのだ」（コリント第2, 3・3）つまり、イエス・キリストは、わたしたちを通して、世の人々に語りたもうのである。

イエスは神の言であり、私たちはイエスの手紙である。

これはクリスチャンの特権であるとともにまた責任でもある。」

カウマン先生『荒野の泉』1月7日

「他の人たちはさらに大きな働きをしよう
けれども君は君の為すべき分を持っている
そして神の民たちの中に
君の仕事は君のようによく出来る者はいない

神の民は例外なしにどんな状態にいても満足している。それは、彼らは神のみ旨を自分の心とし、何事でも神が彼らにさせようと願っている事を、しようと思っているからである。彼らはあらゆるものを脱ぎ捨てて、はだかの有様ですべてのものを100倍にして報いられることを見出すのである。」

2月3日(土)午後2時から、桜美林大学チャプレン薛恩峰先生の司式のもとに、和枝の1周年記念式を自宅で執り行いました。息子の家族、友の会の最寄りの人々が集まり、良い記念会を持つことが出来ました。又2月20日(火)は、佐藤昭夫さん、島田公博さんと港北ニュータウンの緑道を半周しました。国際プール下の梅林の梅と茅ヶ崎公園の満開の河津桜を見て、喜びました。

新型コロナについては、最近の電車の中とかスーパーでは、まだマスクをされている人が半分ほどおられます。マスク、手洗い、うがいなどは、必要と思われるときは実行されて、十分ご注意ください、コロナにかからないようにして下さいようお祈り申し上げます。

2024年2月22日

山口周三

エンカウンター読者各位